



# 神田キャンパスを 教育・研究の 拠点として3年

商学部教授  
渡辺達朗

←神田2号館にて

わたなべ たつろう

神奈川県川崎市出身。横浜国立大学大学院修士課程修了。博士（商学）（大阪市立大学）。財団法人流通経済研究所、新潟大学、流通経済大学を経て、1999年専修大学商学部。専門は流通論・流通政策論。著書に単著『商業まちづくり政策—日本における展開と政策評価』（有斐閣、2014年）、共編著『小売業起点のまちづくり』（碩学舎、2018年）、単著『流通政策入門—市場・政府・社会【第5版】』（中央経済社、2023年刊行予定）など。趣味はまち歩き、アナログレコード鑑賞、映画鑑賞。

## 注力している研究課題

商業学という領域の流通論・流通政策論を専門分野としています。具体的な内容の1つは、流通・商業を空間的な広がりという観点からとらえて、地域のまちづくりにおいて商店街・商業集積がどのような役割を果たしているのか、今後いかなる貢献ができるのかについての検討があげられます。もう1つは、生産・流通・消費の一連のプロセスにおいて、余剰品の廃棄の抑制、リサイクルやアップサイクルへの活用、社会全体のサーキュラーエコノミー（循環経済）への転換などについての検討があげられます。食品ロス削減や子ども食堂などを応援する仕組みの開発・社会実装などをめざしています。

今回は、これらのうち前者のまちづくり関連について紹介します。このテーマについては、これまでどちらかというところを地方都市を研究対象としてきました。それは、地方都市の中心部の方が、人口減少・少子高齢化の影響が深刻であるとともに、郊外立地の大型店・ショッピングセンターからの競争圧力も強く、厳しい状況におかれていることから、研究の必要性や緊急性を感じたからです。全国の課題を抱える地域でフィールドワークを実施するために、科学研究費の基盤研究（B）を2012～14年、2016

～18年、2020～23年に助成いただきました。

そのお蔭で、研究チームで多数の都市をめぐるフィールドワークを行うとともに、研究会で討議を重ね、その成果を論文や著書に反映させることができました。これら一連の研究で、地域の活力・活気にとって多様性に富み個性的な物販店、飲食店、サービス事業所が、路地裏を含めて面的に展開していることの重要性などを確認しました。

## 神田エリアの商業集積研究

2018年頃から、商学部の神田キャンパスへの移転方針が固まったのを受けて、神田エリアに教育・研究の軸足をおこうと考えました。そのため、実際に学部が移転するよりも一足先に、ゼミナールの学生とともに、地域の商店街関係者や古書店や飲食店の皆さんと積極的にコミュニケーションするようにしました。そのときは、学生がキャンパスに通うようになったら、いろいろなことができそうですねと、私たちも地域の人たちも楽しみにしていました。

ところが、ご承知のように2020年2月頃から新型コロナウイルス感染症が急速に広がり、4月からの授業は全面オンラインとなってしまいました。その後の経緯は別の機会にさまざま報告されているの



**神田神保町アーカイブ** Google Map 上の検索システムで神田キャンパス周辺の歴史的資料が、キーワードや対象年などを入れて検索できる

で、ここでは研究面に話を戻します。前記のように2020年から新たに科学研究費の助成を受けることができたのですが、その推進方法についても、オンラインを活用したインタビューや研究会を主体とせざるを得なくなりました。

こうしたことから、地方都市のまちづくり研究は継続しつつも、せつかく教育の本拠が神田キャンパスに移ったのだから、研究についても神田エリアを重点の1つにしようと考えました。神田エリアに研究の重点を移して、まず戸惑ったのは、神田神保町の古書店街という自然発生的な同業種集積の活力・活気の源についてどのように理解するべきかという点です。流通論では商業集積のタイプを、自然発生的か計画的か、同業種の集積か異業種の集積かという2×2のマトリックスで4つのタイプに分けています。これまで研究対象としてきた地方都市の商店街等は基本的に自然発生的な異業種集積で、そこでは上述のように多様性の重要さが指摘できました。これに対して、神保町古書店街は自然発生的に形成された同業種集積といえますが、そうしたタイプの集積の活力・活気は、多様性とどのような関係があるのかという問題です。

この点を検討するために、神保町を構成する事業者の変化を過去50年程度遡ってチェックしてみました。そうすると、一口に古書店街といっても、その中身は古典籍・国文学・社会科学などの伝統的な古書店から、趣味・サブカルチャーなど新しい分野の古書店への新陳代謝が進んでいる一方で、カフェ・レストラン・雑貨店をはじめとする古書店以外の事業者もまた新陳代謝を繰り返していることがわかりました。つまり、神保町古書店街は単業種だけの静的な存在ではなく、主要業種（古書店）と関係業種（その他）とから成り、それぞれにおいて新陳代謝が行われる動的な存在であるということです。こうして多様性が確保・増幅されることで、神田神保



↑コロナの緊急事態宣言下、神田神保町取材した動画



↑昭和30年代を神田のまちで過ごした高山本店代表高山肇さんのインタビュー動画

町を持続可能な存在としているといえます。これらの詳細は、大学院博士後期課程の山崎万緋さんとの共著論文として専修大学商学研究所『所報』に2本公刊しています。

## 神田神保町アーカイブの開発・公開

以上と並行して、専修大学商学研究所プロジェクト（2019年～2021年）として、大学史資料室との連携によって神田キャンパス周辺の歴史的資料（写真・地図・その他）をデジタル・アーカイブとして登録し、資料に関連する場所をGoogle Map上に表示する検索システム「神田神保町アーカイブ」を開発しました。試行版として公開している検索システムの画面は図に示す通りで（URLは <http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thc0576/KandaArchives/>）、二次元バーコードからもアクセス可能となっています。詳細は、2022年度末に商学研究所叢書として公刊予定です。

さらに、アーカイブのコンテンツとして、神田エリアで活躍してきた方々（いわばレジェンド）を対象に、「Kanda Tsumugu Film 企画：Weaving the Future from the Past（過去から未来を紡ぐ）」と銘打って、第二次大戦後の復興期から現在までのライフ・ヒストリーと未来へのメッセージに関する連続インタビューを開始しています（ディレクター役は大学院生・山崎さん、映像制作で一般社団法人東京ビジュアルアーカイブスと連携）。2022年8月時点で10人分のインタビューを完了し、現在継続中です。今後、要所をまとめた動画とインタビュー・テキストをアーカイブに登録・公開していく予定です。ぜひ一度訪れてみてください。